

神戸大学 法学部/法学研究科 2016 年度後期

『政治経済学』講義要項

日程：10 月 23 日, 11 月 6 日, 11 月 20 日, 12 月 4 日, 12 月 18 日

時間：(1) 8:50–10:20, (2) 10:30–12:00, (3) 13:00–14:30

ただし、12 月 4 日は通常の 2 限から 4 限にする予定

教室：第二学舎 162 教室

オフィスアワー：開講日の 12:00–13:00

(ただし、昼食を摂りながら)

担当教員：矢内 ^{やない} 勇生 ^{ゆうき}

Email: yanai@iuuj.ac.jp

Website: <http://www.yukiyanai.com>

授業の内容

この授業は、政治経済学 (Political Economy) の入門である。政治経済学の概要を掴むために重要な理論や分析モデルについて説明する。政治経済学で扱われる重要トピックをすべて扱うことはできないので、広く研究されているものをいくつか取り上げ、それらの内容を紹介・解説する。国際政治経済 (International Political Economy: IPE) ではなく、比較政治経済 (Comparative Political Economy: CPE) を扱う。

授業の目的と到達目標

本講義では、政治経済学の基本的な理論やモデルを学ぶ。政治経済学 (特に比較政治経済学) における主なパズルと、現時点での有力な解答を理解し、研究のために使われている様々なアプローチを身に付けることを目指す。本講義を通じ、政治・経済現象を「政治経済学的に」読み解けるようになることが目標である。

成績評価の方法

- 授業への参加 (出席ではない) : 20%
- ゲストレクチャーに対するリアクションペーパー : 20% (10% × 2)
- 学期末レポート : 60%

リアクションペーパー並びに期末レポートの詳細については授業中に案内する。

Slack

授業時間外のコミュニケーションツールとして、[Slack](#) を使う。この授業の Slack グループは

<https://kobe-pe.slack.com/>

である。Slack の基本的な使い方については、[この記事](#)や[この記事](#)を参照されたい。

授業の内容についての質問は、Slack の適切なチャンネルに投稿すること。適切なチャンネルがない場合は新しいチャンネルを作ってもよい。チャンネルを作成する際は、チャンネルの目的がわかりやすいようにチャンネル名を付けてほしい。

受講生には、質問するだけでなく、他の受講生の質問に積極的に回答することを期待する。回答は完全なものでもなくともかまわない。また、質問した後に自ら答えを見つけたときは、その答えを投稿し、他の受講生と共有することを求める。一定の時間をおいても受講生からの回答がない場合、担当教員が回答するか、次の授業で議論する。

Slack における質問、回答、議論は、授業への貢献とみなし、内容に応じて参加点を加算する。授業に無関係の内容や議論を妨害するような投稿でない限り、減点はしない。

この授業の Slack チームには、以下のリンクから参加できる。

<https://kobe-pe.slack.com/signup>

ただし、登録には神戸大学の学生用メールアドレス (@stu.kobe.ac.jp で終わるもの) が必要がある。他のメールアドレスで登録したいときは、担当教員にメールで知らせてくれれば、指定のメールアドレスに招待状を送る。

教科書・参考書

教科書

教科書は指定しない。

参考書

参考書として授業の復習をする際に手元にあると便利だと思われる本を挙げる。参考書は必ずしも購入する必要はない。

- 浅古泰史. 2016. 『政治の数理分析入門』 木鐸社.
- Drazen, Allan. 2000. *Political Economy in Macroeconomics*. Princeton UP.
- Grosman, Gene M., and Elhanan Helpman. 2001. *Special Interest Politics*. MIT Press.
- Hindmoor, Andrew, and Brad Taylor. 2005. *Rational Choice, Second Edition*. London: Palgrave.
- 井堀利宏, 土居丈朗. 1998. 『日本政治の経済分析』 木鐸社.
- 飯田健, 松林哲也, 大村華子. 2015. 『政治行動論』 有斐閣.
- 神取道宏. 2014 『ミクロ経済学の力』 日本評論社 (またはその他のミクロ経済学の教科書)
- Persson, Torsten, and Guido Tabellini. 2000. *Political Economics: Explaining Economic Policy*. MIT Press.
- 齊藤誠, 岩本康志, 太田聡一, 柴田章久. 2010. 『マクロ経済学』 有斐閣 (またはその他のマクロ経済学の教科書)
- 新川敏光, 井戸正伸, 宮本太郎, 眞柄秀子. 2004. 『比較政治経済学』 有斐閣.
- Shepsle, Kenneth A. 2010. *Analyzing Politics: Rationality, Behavior, and Institutions, Second Edition*. New York: W.W. Norton.
- Weingast, Barry R., and Donald A. Wittman. 2005. *The Oxford Handbook of Political Economy*. Oxford: Oxford UP.
- 山田真裕, 飯田健 編. 2009. 『投票行動研究のフロンティア』 おうふう.

授業計画

全体の授業計画は以下のとおりである。ただし、この 計画は変更することがある。授業計画を変更する場合は授業中に案内し、この講義要項を改訂する。

各受講生は、各回の「**必読**」文献を事前に読んで授業に参加すること。「推薦」文献は希望者のみ読めばいいが、大学院生（と大学院で研究をしたい学部生）はできるだけ読むことが望ましい。「推薦」文献は復習に利用してもよい。授業で扱ったトピックについてさらに詳しく知りたい受講生は「参考」文献を参照すること。

文献は各自で入手すること（購入する必要はない）。リンク付きの論文は、学内ネットワークでダウンロード可能。

第 1 日：10 月 23 日

1. イントロダクション

Question: 政治経済学とは何か

推薦 河野勝. 2004. [政治経済学とはなにか](#). 『早稲田政治経済学雑誌』 356: 27–39.

推薦 Gourevitch, Peter. 2015. “[Paul Krugman Is Right about Economics. What His Arguments Need Are More Politics.](#)” *Monkey Cage, The Washington Post*, October 2, 2015.

推薦 新川ほか『比較政治経済学』序章

参考 Alt, James E. “Comparative Political Economy: Credibility, Accountability, and Institutions.” In Ira Katznelson, and Helen V. Milner, eds. 2002. *Political Science: The State of the Discipline*. New York: W. W. Norton. 147–171.

参考 Hall, Peter A. 1997. “The Role of Interests, Institutions, and Ideas in the Comparative Political Economy of the Industrialized Nations.” In Mark Irving Lichbach, and Alan S. Zuckerman, eds. *Comparative Politics: Rationality, Culture, and Structure*. New York: Cambridge UP. 174–207.

参考 河野勝 編. 2013. 『新しい政治経済学の胎動：社会科学の知の再編へ』 勁草書房：第 1 章

参考 Weingast, Barry R., and Donald A. Wittman. 2005. “The Reach of Political Economy.” *The Oxford Handbook of Political Economy*. Ch.1

参考 Persson & Tabellini, Ch.1

参考 Drazen, Ch.1

2. 政治経済学の分析ツール

Q: 政治経済学はどのような方法で研究を行うのか

必読 マシュー・D・マッカビンズ, マイケル・F・シース (福井治弘 訳). 1996. 合理性と実証主義政治理論の基礎. 『レヴァイアサン』 19: 7–32. (英語版: [Rationality and the Foundation of Positive Political Theory](#).)

推薦 Shepsle, Chs.1–2

推薦 Hindmoor and Taylor 2005, Ch.1

推薦 神取道宏. 2014. 『ミクロ経済学の力』 日本評論社：第 1 章

参考 Gilboa, Itzhak, 2010. *Rational Choice*. Cambridge: MIT Press. (松井彰彦 訳. 2013. 『合理的選択』 みすず書房)

- 参考 Gneezy, Uri, and John A. List. 2013. *The Why Axis: Hidden Motives and the Undiscovered Economics of Everyday Life*. New York: Public Affairs. (望月衛 訳. 2014『その問題、経済学で解決できます。』) Ch. 1
- 参考 河野勝. 2002.『制度』東京大学出版会
- 参考 三宅一郎 編. 1981.『合理的選択の政治学』ミネルヴァ書房
- 参考 武藤滋夫. 2001.『ゲーム理論入門』日経文庫
- 参考 小野耕二. 2001.『比較政治』東京大学出版会
- 参考 尾山大輔, 安田洋祐 編. 2013.『経済学で出る数学：高校数学からきちんと攻める 改訂版』日本評論社：第 5–7 章
- 参考 建林正彦. 1995. 合理的選択制度論と日本政治研究.『法學論叢』137(3): 63–86.
- 参考 Persson & Tabellini, Ch.2
- 参考 Drazen, Ch.2

3. 個人の選好と民主的決定

Q: 民主的決定とは何か

- 必読 坂井豊貴. 2015.『多数決を疑う：社会的選択理論とは何か』岩波書店（岩波新書 1541）
- 推薦 Grofman, B., and S. L. Feld. 1988. “[Rousseau’s General Will: A Condorcetian Perspective.](#)” *American Political Science Review* 82(2): 567–576.
- 推薦 Shepsle, Chs: 3–4
- 推薦 Surowiecki, James. 2005. *The Wisdom of Crowds*. New York: Anchor. (小高尚子 訳. 2009.『「みんなの意見」は案外正しい』角川書店)
- 参考 Hindmoor and Taylor, Ch.5
- 参考 坂井豊貴. 2016.『「決め方」の経済学：「みんなの意見のまとめ方」を科学する』ダイヤモンド社.
- 参考 Riker, William H. 1982. *Liberalism Against Populism: A Confrontation Between the Theory of Democracy and the Theory of Social Choice*. Long Grove, IL: Waveland Press.
- 参考 Saari, D. G. 2001. *Decisions and Elections: Explaining the Unexpected*. Cambridge UP, chapters 1–3

第 2 日：11 月 6 日

4. 投票モデル (1)

Q: 誰に投票するのか

- 必読 飯田ほか：第 5 章
- 必読 尾野嘉邦. 2009. 空間理論と投票行動. 山田・飯田（編）：第 8 章
- 推薦 Downs, Anthony. 1957. *An Economic Theory of Democracy*. Boston: Addison-Wesley. (古田精司 訳. 1980.『民主主義の経済理論』成文堂) Ch.3
- 推薦 Osborne, Martin J. 1995. “[Spatial Models of Political Competition under Plurality Rule: A Survey.](#)” *Canadian Journal of Economics* 28(2): 261–301.
- 参考 浅古泰史. 2011. 政治経済学の新展開：中位投票者定理を巡って.『金融研究』30(4): 83–123.
- 参考 Enelow, James M., and Melvin J. Hinich, eds. 1990. *Advances in Spatial Theory of Voting*.

New York: Cambridge UP.

参考 岡崎哲郎. 2009. [ダウنز・モデル](#), 中位投票者定理と政党の政策実施能力. 『公共選択の研究』 52:6–24.

参考 Grosman & Helpman. Ch.2

参考 Persson & Tabellini, Ch.3

参考 Drazen, Ch.3

5. 投票モデル (2)

Q: 政府の業績は選挙結果を変えるのか

必読 遠藤晶久. 2009. 業績評価と投票. 山田・飯田 (編): 第 7 章

必読 平野浩. 1998. [選挙研究における「業績評価・経済状況」の現状と課題](#). 『選挙研究』 13: 28–38.

必読 平野浩. 2012. [政権交代前後における有権者の経済投票: JES IV 調査データの分析から](#). 『中央調査報』 No.659.

推薦 Stokes, Leah C. 2015. [“Electoral Backlash against Climate Policy: A Natural Experiment on Retrospective Voting and Local Resistance to Public Policy.”](#) *American Journal of Political Science* (forthcoming).

推薦 Woon, Jonathan. 2012. [“Democratic Accountability and Retrospective Voting: A Laboratory Experiment.”](#) *American Journal of Political Science* 56(4): 913–930.

参考 Duch, Raymond M., and Randolph T. Stevenson. 2008. *The Economic Vote: How Political Institutions Condition Election Results*. Cambridge: Cambridge UP.

参考 Fiorina, Morris P. 1981. *Retrospective Voting in American Elections*. New Haven: Yale UP.

参考 Ohmura, Hanako. 2014. [“Nuanced Voters in Japan: Estimating Transition between Economic and Accountability Voting.”](#) SSRN Working Paper.

参考 Singer, Matthew M. 2011. [“Who Says “It’s the Economy”? Cross-National and Cross-Individual Variation in the Salience of Economic Performance.”](#) *Comparative Political Studies* 44(3): 284–312.

参考 Drazen, Ch.7

参考 川人貞史, 吉野孝, 平野浩, 加藤淳子. 2011. 『新版 現代の政党と選挙』 有斐閣: 第 9 章

参考 小林良彰. 2000. 『選挙・投票行動』 東京大学出版会: 第 8 章

6. 選挙とアカウンタビリティ

Q: 政府は有権者の望みを叶えるか

必読 飯田ほか: 第 8 章

必読 高橋百合子 編. 2015. 『アカウンタビリティ改革の政治学』 有斐閣: 第 1, 2 章

推薦 Adserà, Alicia, Carles Boix, and Mark Payne. 2003. [“Are You Being Served?”](#) *Journal of Law, Economics, and Organization* 19(2): 445–490.

推薦 Alt, James, Ethan Bueno de Mesquita, and Shanna Rose. 2011. [“Disentangling Accountability and Competence in Elections: Evidence from U.S. Term Limits.”](#) *The Journal of Politics* 73(1): 171–186.

推薦 Dal Bó, Ernesto, and Martín A. Rossi. 2011. [“Term Length and the Effort of Politicians.”](#) *Review of Economic Studies* 78(4): 1237–1263.

- 推薦 Matsubayashi, Tetsuya. 2014. “The Implications of Nonvoting in Japan.” 『年報政治学 2014-I：民意』 175–199.
- 参考 Bartels, Larry M. 2008. *Unequal Democracy: The Political Economy of New Gilded Age*. Princeton: Princeton UP.
- 参考 Downs, Anthony. 1957. *An Economic Theory of Democracy*. Boston: Addison-Wesley. (古田精司 訳. 1980. 『民主主義の経済理論』成文堂) Ch.4
- 参考 Ferejohn, John. 1986. “[Incumbent Performance and Electoral Control](#).” *Public Choice* 50(1/3): 5–25.
- 参考 Gilens, Martin. 2005. “[Inequality and Democratic Responsiveness](#).” *Public Opinion Quarterly* 69(5): 778–796.
- 参考 Przeworski, Adam, Susan C. Stokes, and Bernard Manin, eds. 1999. *Democracy, Accountability, and Representation*. Cambridge: Cambridge UP.
- 参考 Persson & Tabellini, Ch.4

第 3 日：11 月 20 日

7. 政治的景気循環

Q: 選挙は景気に影響を与えるか

- 必読 飯田ほか：第 7 章
- 必読 東島雅昌. 2013. 権威主義体制における選挙景気循環：グローバル・データを用いた実証分析. 久保慶一, 河野勝 編『民主化と選挙の比較政治学：変革期の制度形成とその帰結』勁草書房：第 2 章
- 推薦 Alesina, Alberto, Nouriel Roubini, and Gerald D. Cohen. 1997. *Political Cycles and the Macroeconomy*. Cambridge: MIT Press.
- 推薦 Canes-Wrone, Brandice, and Jee-Kwang Park. 2012 “[Electoral Business Cycles in OECD Countries](#).” *American Political Science Review* 106(1): 103–122.
- 参考 Alesina, Alberto. 1987. “[Macroeconomic Policy in a Two-party System as a Repeated Game](#).” *Quarterly Journal of Economics* 102(3): 651–678.
- 推薦 西澤由隆, 河野勝. 1990. 日本における選挙景気循環：総選挙と政府の財政政策. 『レヴァイアサン』 6: 152–171.
- 参考 Aidt, Toke S., Francisco José Veiga, and Linda Gonçalves Veiga. 2011. “[Election Results and Opportunistic Policies: A New Test of the Rational Political Business Cycle Model](#).” *Public Choice* 148(1–2): 21–44.
- 参考 Hibbs, Douglas A., Jr. 1977. “[Political Parties and Macroeconomic Policy](#).” *American Political Science Review* 71(4): 1467–1487.
- 参考 Nordhaus, William D. 1975. “[The Political Business Cycle](#).” *Review of Economic Studies* 42(2): 169–190.
- 参考 Tufte, Edward R. 1978. *Political Control of the Economy*. Princeton: Princeton UP.
- 参考 新川ほか『比較政治経済学』第 10 章
- 参考 Drazen, Ch.7

8. 選挙の実施時期

Q: 選挙のタイミングは何によって決まるのか

- 必読 砂原庸介. 2015. 『民主主義の条件』東洋経済新報社：第 9 章
- 必読 齊藤淳. 2010. 『自民党長期政権の政治経済学』勁草書房：第 4 章
- 推薦 Smith, Alastair. 2003. “[Election Timing in Majoritarian Parliaments.](#)” *British Journal of Political Science* 33: 397–418.
- 推薦 Kayser, Mark Andreas. 2005. “[Who Surfs, Who Manipulates? The Determinants of Opportunistic Election Timing and Electorally Motivated Economic Intervention.](#)” *American Political Science Review* 99(1): 17–27.
- 推薦 Roy, Jason, and Christopher Alcantara. 2012. “[The Election Timing Advantage: Empirical Fact or Fiction?](#)” *Electoral Studies* 31(4): 774–781.
- 参考 Cargill, Thomas F., and Michael M. Hutchinson. 1991. “[Political Business Cycle with Endogenous Election Timing: Evidence from Japan.](#)” *Review of Economics and Statistics* 73(4): 733–739.
- 参考 Smith, Alastair. 2004. *Election Timing*. New York: Cambridge UP.
- 参考 Persson & Tabellini, Ch.16
- 参考 Drazen, Ch.7

9. 財政赤字

Q: 財政赤字が続くのはなぜか

- 必読 村松岐夫, 北村亘. 2010. [財政赤字の政治学：政治的不安定生、経済バブル、歳出赤字](#). 寺西重郎編. 『構造問題と規制緩和』慶応義塾大学出版会.
- 必読 北村行伸. 1993. [財政赤字の政治経済学](#). 『金融研究』12(4): 79–97.
- 推薦 井堀・土居：第 7 章
- 推薦 Alesina, Alberto, and Roberto Perotti. 1994. “[The Political Economy of Budget Deficits.](#)” *NBER Working Paper* No. 4637.
- 推薦 Barro, Robert J. 1989. “[The Ricardian Approach to Budget Deficits.](#)” *Journal of Economic Perspectives* 3(2): 37–54.
- 参考 井堀利宏 編. 2004. 『日本の財政赤字』岩波書店
- 参考 真淵勝. 1994. 『大蔵省統制の政治経済学』中央公論社
- 参考 Persson & Tabellini, Ch.13

第 4 日：12 月 4 日

10. 税と再分配（1）中位投票者モデル

Q: 政府は誰からお金を取り上げ、それを誰に配るのか

- 必読 井堀利宏. 2009. 『誰から取り、誰に与えるか：格差と再分配の政治経済学』東洋経済新報社：第 1 章 & 第 4 章
- 推薦 Acemoglu, Daron, and James A. Robinson. 2005. *Economic Origins of Dictatorship and Democracy*. New York: Cambridge University Press.

- 推薦 Agranov, Marina, and Thomas R. Palfrey. 2014. “[Equilibrium Tax Rates and Income Redistribution: A Laboratory Study](#).” NBER Working Paper No.19918.
- 推薦 Milanovic, Branko. 2000. “[The Median-Voter Hypothesis, Income Inequality, and Income Redistribution: An Empirical Test with the Required Data](#).” *European Journal of Political Economy* 16(3): 367–410.
- 参考 Kenworthy, Lane, and Jonas Pontusson. 2005. “[Rising Inequality and the Politics of Redistribution in Affluent Countries](#).” *Perspectives on Politics* 3(3): 449–471.
- 参考 Meltzer, Allan H., and Scott F. Richard. 1981. “[A Rational Theory of the Size of Government](#).” *Journal of Political Economy* 89(5): 914–927.
- 参考 Milanovic, Branko. 2010. “[Four Critiques of the Redistribution Hypothesis: An Assessment](#).” *European Journal of Political Economy* 26(1): 147–154.
- 参考 *The Oxford Handbook of Political Economy*. Ch.5.
- 参考 Persson & Tabellini, Chs 6–7
- 参考 Drazen, Ch. 8

11. 税と再分配 (2) 党派性モデル

Q: 政府は誰からお金を取り上げ、それを誰に配るのか

- 必読 Iversen, Torben, and David Soskice. 2006. “[Electoral Institutions and the Politics of Coalitions: Why Some Democracies Redistribute More Than Others](#).” *American Political Science Review* 100(2): 165–181.
- 推薦 Rueda, David. 2005. “[Inside-Outsider Politics in Industrialized Democracies: The Challenge to Social Democratic Parties](#).” *American Political Science Review* 99(1): 61–74.
- 推薦 Scheve, Kenneth, and David Stasavage. 2009. “[Institutions, Partisanship, and Inequality in the Long Run](#).” *World Politics* 61(2): 215–253.
- 参考 Lee, David S., Enrico Moretti, and Matthew J. Butler. 2004. “[Do Voters Affect or Elect Policies? Evidence from the U.S. House](#).” *The Quarterly Journal of Economics* 119(3): 807–859.
- 参考 McCarty, Nolan, Keith Poole, and Howard Rosenthal. 2006 *Polarized America: The Dance of Ideology and Unequal Riches*. Cambridge, MA: MIT Press, Ch.3.
- 参考 Roemer, John E. 1999. “[The Democratic Political Economy of Progressive Income Taxation](#).” *Econometrica* 67(1): 1–19.
- 参考 Persson & Tabellini, Ch.5

12. 税と再分配 (3) その他のモデル

Q: 政府は誰からお金を取り上げ、それを誰に配るのか

- 必読 Moene, Karl Ove, and Michael Wallerstein. 2001. “[Inequality, Social Insurance, and Redistribution](#).” *American Political Science Review* 95(4): 859–874.
- 推薦 Iversen, Torben, and David Soskice. 2001. “[An Asset Theory of Social Policy Preference](#).” *American Political Science Review* 95(4): 875–893.
- 推薦 Lupu, Noam, and Jonas Pontusson. 2011. “[The Structure of Inequality and the Politics of Redistribution](#).” *American Political Science Review* 105(2): 316–336.

- 推薦 Shayo, Moses. 2009. “[A Model of Social Identity with an Application to Political Economy: Nation, Class, and Redistribution.](#)” *American Political Science Review* 103(2): 147–174.
- 参考 Margalit, Yotam. 2013. “[Explaining Social Policy Preferences: Evidence from the Great Recession.](#)” *American Political Science Review* 107(1): 80–103.
- 参考 Piketty, Thomas. 1995. “[Social Mobility and Redistributive Politics.](#)” *The Quarterly Journal of Economics* 110(3): 551–584.
- 参考 Scheve, Kenneth, and David Stasavage. 2006. “[Religion and Preferences for Social Insurance.](#)” *Quarterly Journal of Political Science* 1(3): 255–286.

第 5 日（最終日）：12 月 18 日（授業時間に注意）

13. 独裁制と民主制（2 限 [10:40–12:10]）

Q: 経済は政治体制にどんな影響を及ぼすか

- 必読 粕谷祐子. 2014. 『比較政治学』ミネルヴァ書房：第 5, 6 章
- 必読 Acemoglu, Daron, and James A. Robinson. 2001. “[A Theory of Political Transition.](#)” *American Economic Review* 91(4): 938–963.
- 推薦 Acemoglu, Daron, and James A. Robinson. 2006. *Economic Origins of Dictatorship and Democracy*. New York: Cambridge UP.
- 推薦 Ansell, Ben, and David Samuels. 2010. “[Inequality and Democratization: A Contractarian Approach.](#)” *Comparative Political Studies* 43(12): 1543–1574.
- 推薦 Boix, Carles. 2003. *Democracy and Redistribution*. New York: Cambridge UP.
- 推薦 Ziblatt, Daniel. 2008. “[Does Landholding Inequality Block Democratization?: A Test of the ‘Bread and Democracy’ Thesis and the Case of Prussia.](#)” *World Politics* 60(4): 610–641.
- 参考 Acemoglu, Daron, Simon Johnson, James A. Robinson, and Pierre Yared. 2009. “[Reevaluating the Modernization Hypothesis.](#)” *Journal of Monetary Economics* 56(8): 1043–1058.
- 参考 Fearon, James D. 2011. “[Self-Enforcing Democracy.](#)” *Quarterly Journal of Economics* 126(4): 1661–1708.
- 参考 Haggard, Stephan, and Robert R. Kaufman. 2012. “[Inequality and Regime Change: Democratic Transition and the Stability of Democratic Rule.](#)” *American Political Science Review* 106(3): 495–516.
- 参考 河野勝, 岩崎正洋 編. 2002. 『アクセス比較政治学』日本経済評論社：第 4, 5 章

14. ゲストレクチャー 1（3 限 [13:20–14:50]）

講師：遠藤 晶久 先生（高知大学）

演題：TBA

- 必読 講演内容に関連するペーパーを配布する予定
- 参考 Jou, Willy, and Masahisa Endo. 2016. *Generational Gap in Japanese Politics: A Longitudinal Study of Political Attitudes and Behaviour*. New York: Palgrave Macmillan.
- 参考 Jou, Willy, and Masahisa Endo. 2016. “[Ideological Understanding and Voting in Japan: A Longitudinal Analysis.](#)” *Asian Politics and Policy* 8(3): 456–473.

参考 遠藤晶久. 2016. [知識はなくてもいい、失敗してもいい](#) 自分自身の関心に基づき、まず投票を『Journalism』2016 年 6 月号: 6–13.

15. ゲストレクチャー 2 (4 限 [15:10–16:40])

講師：東^{ひがし}島^{しま} 雅昌^{まさあき} 先生 (東北大学)

演題：TBA

必読 講演内容に関連するペーパーを配布する予定

参考 Bodea, Cristina, and Masaaki Higashijima. 2015. “[Central Bank Independence and Fiscal Policy: Can the Central Bank Restrain Deficit Spending?](#)” *British Journal of Political Science* (Online First)

参考 Bodea, Cristina, Masaaki Higashijima, and Raju Jan Singh. 2016. “[Oil and Civil Conflict: Can Public Spending Have a Mitigation Effect?](#)” *World Development* 78: 1–12.

参考 Higashijima, Masaaki, and Ryo Nakai. 2016. “[Elections, Ethnic Parties, and Ethnic Identification in New Democracies: Evidence from the Baltic States.](#)” *Studies in Comparative Institutional Development* 51(2): 124–146.